

各 位

株式会社ジー・スリーホールディングス

ハイパーloop・プロジェクトの進捗状況について

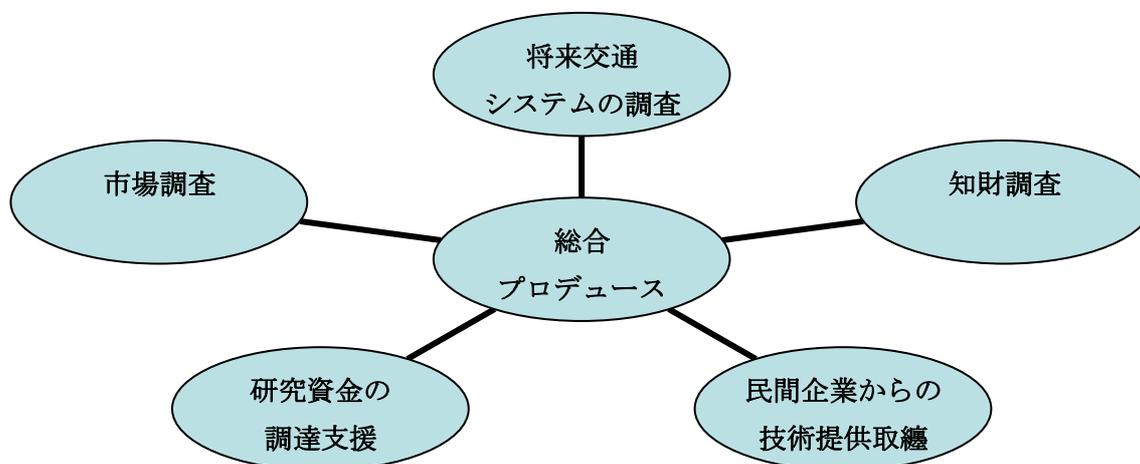
株式会社ジー・スリーホールディングス（代表取締役社長兼最高経営責任者 奥田泰司 以下、「当社」という。）は、平成 29 年 5 月 22 日付「慶應義塾大学との次世代交通システム構想（ハイパーloop）における共同研究契約の締結に関するお知らせ」において、当社と慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（以下、「慶應 SDM」という。）との間で、次世代交通システム構想であるハイパーloopの研究についての共同研究契約（以下、「共同研究契約」という。）を締結した旨を公表しております。

このたび、慶應 SDM との間で、共同研究契約を更新（契約期間 平成 31 年 3 月 31 日）いたしましたので、以下のとおり、お知らせいたします。

1. 共同研究契約における当社の役割

ハイパーloop構想は、スペース X 社のイーロン・マスク氏が提唱する、ロスアンゼルスとサンフランシスコを 30 分で移動する高速鉄道としての次世代交通システム構想です。

当社は、ハイパーloop構想と、当社が推進する再生可能エネルギーの利用促進、環境負荷低減への貢献等の観点からの環境問題への取り組みが、共感し合うものであると判断し、ハイパーloopの社会実装化構想のために、慶應 SDM に対して、研究資金の調達支援や、民間企業からの技術提供の取り纏め等、総合的なマネジメントを行っています。



2. 慶應 SDM による研究開発の進捗状況

ハイパーloopの社会実装化構想のために、スペース X 社の主催により行われている「SpaceX Hyperloop Pod Competition」において、慶應 SDM は、平成 29 年 1 月 29 日にロスアンゼルスで開催された Competition-I の結果、総合 10 位となりました。

また、平成 29 年 8 月 27 日に開催された Competition-II の結果、スペース X 社からは、「磁気浮上と自動走行によりチューブの端から端まで走り切った最初のポッドである」という自立走行を認める証書を受領しています。

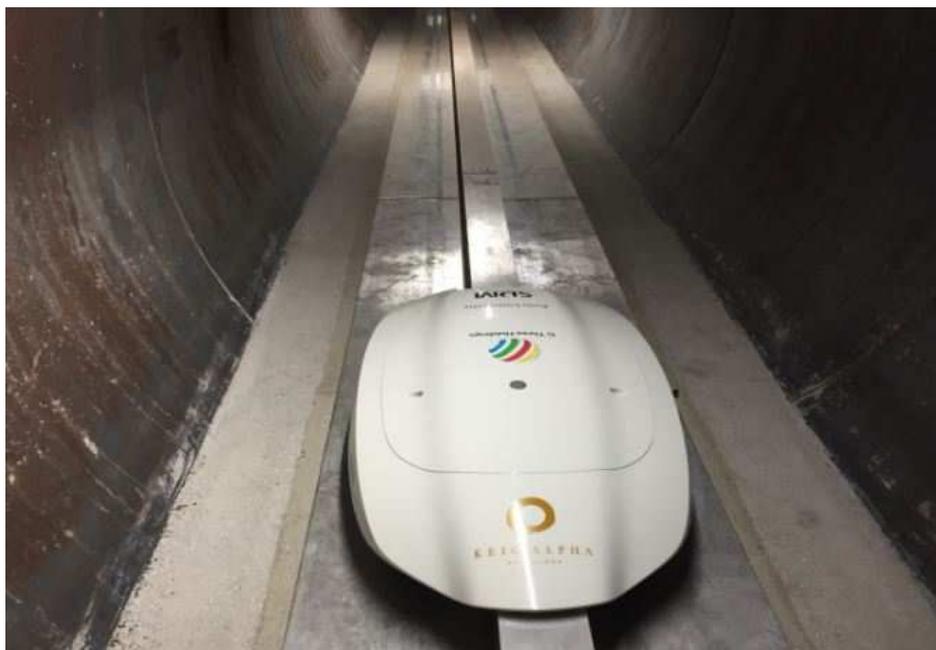
このたび、平成 30 年 7 月 22 日に開催される Competition-Ⅲの最終設計審査をクリアし、出場が承認されております。



3. 今後の見通し

当社は、将来的な実用化段階においては、当社グループからの太陽光発電や風力発電等による開発資材の供給も視野に検討するとともに、国内外の官公庁及び民間企業に向けて、新たな運輸交通手段としての次世代交通システム構想を提案してまいります。

当社は、本件を始めとして、今後の成長分野において、新事業や新製品の開発につながる産学連携による研究開発を積極的に進めてまいります。



以上